

特別支援学校 学校評価一覽表②（令和4年度版）

（様式2）

羅 針 盤			関係する分掌等	達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	○ 学校からのおたよりや連絡帳等から「学校の様子がよく分かる」と80%以上の保護者が答えている。	小学部主事 中学部主事 事務部	A	A	A	○ 児童生徒の生活の様子について、ささいなことも連絡帳や電話、保護者送迎時等で丁寧に伝え、アンケートではおよそ90%以上のH5:I16評価を得た。より伝達しやすい方法としてSNSの活用等も試行している。	○ 引き続き、児童生徒の生活の様子についてよく観察し、保護者に丁寧かつ迅速に伝えていく。
		○ 学校行事やPTA活動等に参加している保護者が80%以上である。	渉外部 PTA係	B	A	A	○ 感染症対策を徹底しながら、学校行事は授業参観2回、PTA活動は昨年度より多く会議を設定することができた。各委員会ごとに教師と役員が連絡を密に取り合うことができた。	○ 引き続き保護者が参加しやすい環境を設定したり、感染症対策を考えたPTA行事の検討の必要性を伝え、話し合う機会を設けたりする。 ○ コロナ以前の活動についても周知を図れるようにする。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○ 「個別の教育支援計画」について、学校と保護者との共通理解に基づいて計画を作成するために、教師が保護者のニーズや心情に寄り添う支援を行い、80%の保護者から有用であると評価を得ている。	学習指導部 学習指導係	A	A	A	○ 教育相談や連絡ノート等でのやりとりを通じて、保護者のニーズや心情に寄り添い、保護者との共通理解に基づいた支援内容を設定して取り組むことができた。	○ 引き続き、保護者と丁寧に情報交換や共有ができるようにする。また、学校、保護者、関係機関が連携しながら支援を行えるように、必要に応じて個別の教育支援計画の情報を関係機関と共有することを周知していく。
		○ 居住地校交流について、希望する保護者の80%以上が子どもにとって有用であると感じている。	渉外部 交流係	B	B	B	○ 感染症予防の関係で、直接交流の他にも手紙などの間接交流も行った。今年度は直接交流13件・間接交流7件の実施をすることができ、昨年度よりも希望する保護者の満足度が上がった。	○ より充実した交流を実施するために、保護者との連絡や情報交換を密にししながら、引き続き相手校との事前の打ち合わせを丁寧に行う。 ○ 感染症の拡大状況によって交流の仕方を相手校と検討し、保護者にも説明する。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	○ 地域の幼保小中学校や保護者に対する相談を年間200件以上受けている。	地域支援部 エリアサポート係	A	A	A	○ 校長会等で本校サポート事業について情報発信したこと、心理検査の対応も始めたことで、相談件数が増えた。継続して対応するケースも増えており、子どもの変容に応じて支援方法を修正することができた。	○ 相談件数が増えたことにより、日程調整の難しさや、準備や記録の時間が足りないことが課題となっている。今後他校専門アドバイザーや外部専門家等と連携し、相談の質を高めていけるようにしていく。
		○ 地域の幼保小中学校への情報発信として学校公開を年2回、地域支援だよりの発行を年3回実施している。	地域支援部 エリアサポート係	B	A	A	○ 学校公開ではグループ分けによる参観方式を実施することで、感染症対策をしつつ、多くの来校者に対応することができた。地域支援だよりは現在第3号を作成中である。	○ 学校公開は受付方法等細かな点を修正し、今年度並みの規模で感染症対策をしながら年2回実施していく。地域支援だよりは、相談が立て込む時期は発行が難しいが、できるだけ学期に1回の発行を目指していく。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○ 個別の指導計画の立案・評価について、児童生徒の実態に応じた指導を実践できるよう、学年・学部での共通理解と検討を年3回行っている。	学習指導部 学習指導係	A	A	A	○ 学年や学部間で共通理解を図り、検討を重ねながら個別の指導計画の立案や評価ができた。	○ 適切な実態把握や目標設定、評価が行えるように、引き続き、学年や学部間で検討や見直しを行い、学習状況に応じた授業改善を図っていけるようにする。
		○ 目標を達成するための手立ての1つとして、ICTを活用した授業実践をしていると80%以上の教師が答えている。	研修部 校内研修係	A	A	A	○ 作成した年度ごとに分類していたICT教材を教科ごとに分類することで共有や検索がしやすくなった。また、それぞれの教科にはどのような教材があるか教員間で共通理解をすることができた。	○ 分類した教材を有効活用できるようICT教材を活用した授業実践を共有できるようにする。児童生徒が主体的にICT教材を活用できる授業実践の充実を図る。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○ 児童生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを実践し、「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成している。	学習指導部 学習指導係	B	A	A	○ 実態に応じた指導内容や手立て等の工夫で授業を行い、個別の指導計画の目標を概ね達成することができた。	○ 指導と評価をつなげた授業づくりや授業改善をいっそう図っていけるようにする。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○ 児童生徒のけがや体調などについて、学期に2回以上、連絡ノートや電話、面談等で保護者と情報交換をしている。	保健部 保健係	A	A	A	○ アンケート結果では99%が、「よくできている」「大体できている」と答え、児童生徒のけがや体調などについて、保護者と情報交換ができた。	○ 引き続き保護者との情報交換の徹底を図る。情報交換の仕方、タイミング、伝え方などを養護教諭や学部主事などと相談して行うよう周知する。
		7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○ 引き渡し訓練では、引き渡しマニュアルにもとづいた確実な引き渡し方法について、学校と保護者で共通理解を図り、実施することができている。	安全部 防災係	B	B	B	○ 4年ぶりの引き渡し訓練となった。送迎経路の決定やマニュアルの作成、配布。実施方法など新年度で担当が変わったところでは対応が難しく、対応が遅れた。
		○ 避難訓練、不審者対策の研修を計画し、訓練や研修を通して、90%以上の職員が児童生徒の避難誘導など各自の役割を理解している。	安全部 防災係	A	A	A	○ 今年度はスクールサポーターに來校して頂き、不審者対応訓練を行った。情報係と協力し、Web会議システムによるリモート参加も併用してのさすまたの実習と講話が実施できた。年3回の避難訓練では、コロナ流行の状況に合わせた実施方法で行うことができた。	○ コロナ流行の状況をみながら、避難訓練方法を計画、実施する。災害時に備えた避難訓練の実施を図る。
	8 いじめのない学校作りに取り組んでいますか。	○ 保護者の90%以上が、学校はいじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んでいると答えている。	生徒指導部 生徒指導係	A	A	A	○ いじめ対策委員会を5回実施した。情報教師ながら、児童生徒のいじめの早期発見・対応・解決が図れるようになってきた。 ○ 児童生徒の気持ちに寄り添い、児童生徒が落ち着いて学校生活を送れるよう支援してきた。	○ いじめ対策委員会で情報共有しながら、児童生徒のいじめの早期発見・対応・解決を図り、法に基づく組織的な対応を徹底する。 ○ 児童生徒の気持ちに寄り添い、児童生徒が落ち着いて学校生活を送れるよう支援していく。保護者へいじめ対策について情報発信する。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○ 内容の充実や発展的な課題の検討を行うために、係会などを定期的に行う。	進路指導部 キャリア教育係	A	A	A	○ キャリア教育通信を3部発行し、情報発信、啓発活動を行うことができた。	○ キャリア教育通信の書式など今後検討していく。
		10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○ 進路指導に関する行事を年5回以上実施している。	進路指導部 進路指導係 キャリア教育係	A	A	A	○ 中3生対象の進路学習や、中1、2年対象の進路相談会も実施した。
		○ 本校保護者及び地域の関係者に向けての情報発信として、「進路だより」を年5回以上発行している。	進路指導部 キャリア教育係	B	B	B	○ 昨年度の進路だよりを参考に情報発信を行った。	○ 内容の精選や、最新の情報などを既存の内容に加えて取り入れていく。その際、保護者や教職員が必要としている情報などを考慮していく。